

中学部 外国語活動の取り組み

部署名 発表者名 中学部 高良 祥也

生徒の実態

中学部 2年生 2グループの生徒 13名

中学部の授業には1.2.3.4グループがあり習熟度に応じたクラス編成がなされている。本グループの生徒はネイティブスピーカーとの授業経験もあり、「英語は楽しい」という感想を持っている生徒や聞きなれた英語の歌を口ずさんで踊ることができる生徒もいる。英語に関する興味・関心が高い生徒が多い。

指導観

英語の5つの領域のうち「聞くこと」「話すこと（やりとり）」に焦点を当てている。





昨年度は色々な英語の歌を歌うことで英語を楽しみながら身に付けることができると考えていた。

今年度に関しては新型コロナウイルスの影響で歌を歌うことはせずに色々な英語のダンスに取り組むことで楽しみながら身に付けることを意識し、生徒全員が楽しく活動に取り組める集団づくりをしている。【協-①】身近な物の英単語クイズを通して、教員とのやりとりを行っている。【コ-②】ゲームの要素を取り入れ友だちと協力して答えられるようにし友だちとのコミュニケーションに繋がるようにしている。【協-②】また、電子黒板を活用することで生徒が積極的に手を挙げて、電子黒板に答えを記入しに来る姿など生徒の主体性がでるような工夫を取り入れている。【見-②】

今後の課題

ダンスやクイズを通して楽しく英語に触れている環境を作っているが、繰り返しの中で使用されている英語表現に慣れ、自分で使用できるようになるような工夫をしていく。【コ-②】ICT機器を使用して生徒の主体性を引き出せる場面を多く作っていく。【見-②】

豊中支援学校 キャリア教育6観点

- ・【コ-②】  コミュニケーション力 発信 ②自分の要求・意思を伝えることができる。
- ・【協-①】  協調する力 集団 ①集団に参加できる。
- ・【協-②】  協調する力 集団 ②協力できる。
- ・【見-②】  見通し、行動する力 目標設定力 ②見通しを立てて行動することができる。

高等部 外国語活動の取り組み

部署名 発表者名 高等部 下田 健太郎

授業のグループごとの傾向

職業

- 全体的に理解度が高い
- 英語特有の発音の指導ができる

学①

- 英語に対して積極的
- 勉強に自信がない生徒もいる

学②

- 自閉スペクトラム症の生徒が多い
- パターンを決めて指導

★実際のネイティブの音声を用いるかどうか、映像教材はどういったものがよいか、どの程度の表現を目標とするかなど、同じ単元を扱っても指導に大きな幅が出てくる。

●外国語の授業のねらいと支援方法 ※【 】は本校キャリア教育6観点より

① 英語を使うことに対して積極的なマインドを持つ【コミュニケーション・発信③】

→英語を話すときはいつもの自分と違っていい「外国人モード」を推奨する。いつもより大きなリアクション、いつもよりはっきりとした声、間違えてもOKな雰囲気でも積極的な発言を促す。

② 自己表現のツールとしての英語を身につける【協調・自己③】

→英語を学ぶステップは自己表現のチャンスである。「自分のことを話す」というポイントを学習の過程の中で大切にする。

③ 海外の文化を日本と比較しながら理解する

→ただ単に海外の文化を学ぶだけでなく、日本との比較をすることで自分たちの生活視点での学習につなげる。画像や映像を活用し、視覚的な支援を増やす。

結果

★授業中の生徒の変化

- 普段より大きな声や英語を楽しむ余裕

★授業外の生徒の変化

- 朝の挨拶が英語になった
- 学校生活の中でも目についたものを英語で表そうとする積極的な姿勢

課題と今後の展望

- ① まだ英語に慣れていない生徒、学ぶことに消極的な生徒へのアプローチを検討
- ② より豊かな表現を引き出せるように、授業中、授業外での英語のコミュニケーション量を増やす
- ③ 他者との違いを認められるグローバルな視点を広げる

豊中 安全安心 HOT ホットと PROJECT 実践報告

【HOT ホットと PT (学校経営推進費 PT チーム)】上戸 伸恵

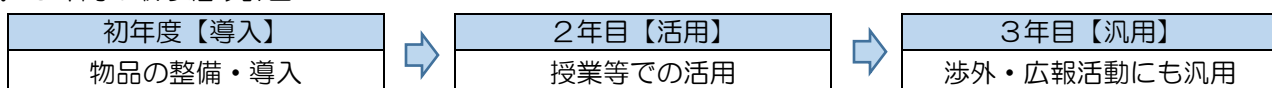
豊中安心サポーターズ
キャラクター **お助け ONE 太** →



1. 事業計画の概要

| | |
|------|---|
| 計画名 | 豊中 安全安心 HOT ホットと PROJECT (PTA との協働で創り出す、災害時にも役立つ教育環境整備) |
| 事業目標 | 災害発生時に備えて、 防災、減災グッズ を授業に活用し 日常化 することで、自らの命を守り抜く「自助」のための「主体的に行動する態度」を育成し、保護者との「共助」で 非常時も安全で安心な学びの場 を創造する。 |





2. 3年間の取り組み計画



3. 主な整備物品

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| ミライスピーカー  | マッスルスーツ  | 発電機  | ポータブル電源  | エアベッド  |
| テント各種  | ワイヤレススピーカー  | 蛍光灯カバー  | マイク各種  | プロジェクター  |

4. これまでの主な実践

| 全校行事 | 各授業 | PTA 活動 |
|---|--|--|
| ◎芸術鑑賞会 (R元.10)  ◎卒業式、入学お祝いの会 | ◎授業での活用 (小6・生活) ・カプセルテントやエアベッド、簡易トイレ等の実体験 ・学部集会や各授業でのミライスピーカーの活用  ◎ぼうさい甲子園への応募 (R2.11) | ◎追加物品購入、消耗品購入 ◎蛍光灯カバー、ガラス飛散防止シート設置作業 (R2.8)   |

III 教科等研究会のポスター発表

5. 学校生活アンケート、学校教育自己診断による評価（R2 年度）

| 対象 | 診断内容 | 評点（評価） |
|-----|-------------------------------------|-------------|
| 生徒 | 先生は、地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいか教えてください。 | 84.2 (◎) |
| 保護者 | 学校は、防災や防犯など非常時に対する取り組みを適切に行っている。 | 86.6 (◎) |
| 教職員 | わたしは、学校防災に対しての意識が高まっている。 | 74.5 (○) |

6. PTより

現在PTでは、授業での物品活用事例をまとめています。

『ぼうさい甲子園』応募の結果は、【チャレンジ賞】受賞でした。

今後も、【日常使いのできる備蓄品】の活用を拡げていければと考えています。

児童生徒の安全安心、先生方の学校防災への意識を高められる一助となりますように。



PT 作成動画もみてね！

「算数」(グループ) 学習指導案

府立豊中支援学校

T 1 岡田 梨恵

T 2 山本 尚美

T 3 藤原 ゆかり

1. 日時 令和2年9月30日(水) 第3時限(10:30~11:20)
2. 場所 小学部 第5学年2組教室
3. 学部・学年・組 小学部 第6学年 5名 第5学年 2名 計7名
4. 単元名 「丸、三角、四角をさがそう」
5. 単元目標

- ・丸と三角と四角の違いを知り、丸や三角や四角の図形を描くことができる。(知・技)
 - ・身の回りにあるものから形に注目して、丸や三角や四角を探し出すことができる。
(思・判・表)
 - ・丸や三角や四角に関心を持ち、自ら探そうとする態度を養う。(学・人)
- ≪特別支援学校 小学部 学習指導要領「算数科」：2段階：図形≫

6. 児童観

本グループは6年生5名、5年生2名の計7名で構成されている。S-M社会生活能力検査の社会生活年齢(SA)は3歳4か月~5歳0か月(令和2年3月または4月の結果)の児童である。正方形と長方形の違いを学習している児童もいるが、ほとんどの児童は、今までの生活の中で漠然と丸や三角や四角に触れてきた児童である。形の違いは理解できていても、実生活と結びつけて活かすことまでには至っていないと感じる。

iPadなどのタブレットは使い慣れており、楽しいものと認識しているため、iPadや電子黒板を使用する授業に意欲的に取り組もうとする様子が見られた。その反面、感情に左右される児童が多く、落ち着いて学習できるときは積極的に取り組めるが、不安定なときは授業の最後まで参加できないときもある。

全員が主なコミュニケーション手段は発語で、自分の思いを伝えることは得意とする児童が多いが、他者へ興味関心を向けることはまだ難しいと感じる。

7. 教材観

本グループの児童たちは、今までにももの名称や色のマッチング等を学習してきた児童が多い。そこで、今までは漠然とした形という概念を確実なものにして、形をもとに身の回りにある物を捉えていく力を形成したいと考え、本単元で丸と三角と四角について取り上げる。

また、自分が見つけたものを発表し合う場を設定することで、自分だけではなく友だちの発見に関心が向けられるようになってほしい。他者へ関心を向けることが苦手な児童が多いが、ICTに興味を持っている児童たちなので、発表する側、聞く側とも主体的に取り組めることをねらい、発表方法に iPad や電子黒板が有効活用できる、そして他者への興味関心へと結び付けるために導入した。

8. 指導観

丸と三角と四角を探し出す教材は、児童の身近にあるキャラクターや日常よく目にするものや記号等を選ぶことで、児童の興味を引きつけるだけではなく、今後の実生活に結びつけられるように工夫する。絵や写真という二次元から実生活という三次元へ形探しを広げていくことで、視野を広げるという深い学びへとつなげるよう学習を計画する。

本グループの児童は小学部高学年で、将来の自立をめざし、「自分で操作する」「自分で見つける」など「自分でやってみる」ということに重きを置いて授業展開をしていきたい。自ら選択し決定する場面を多く設定することで、やってみようと思う主体性につながる内容を組み立てていきたい。児童が主体的に取り組むためには、自信をもって取り組める安心感が必要であると考え。そのため、スモールステップで繰り返す学習を計画立て、個別に支援が必要な児童の場合には、ヒントを提示する場を設定し、安心して学習に取り組めるよう配慮する。

9. 単元の評価規準

①評価規準

| A 知識・技能 | B 思考・判断・表現 | C 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| ① 角の数の違い等、丸と三角と四角の特徴を知っている。 ② 丸と三角と四角の特徴の違いに気をつけながら、図形を描くことができている。 | ① 自分が見つけた形を伝えている。 ② 身の回りにあるものから丸や三角や四角の形を探し出している。 | ① 自ら問題や課題を選ぼうとしている。 ② 自分の発見を相手に伝えようとしている。 |

②キャリア教育の観点

| 1 コミュニケーション | 2 協調する力 | 3 ルール理解・遵守力 |
|---|---|--|
| <p>①あいさつをすることができる。</p> <p>②自分の要求・意思を伝えることができる。</p> <p>③自分の意見を伝えることができる。</p> <p>⑤呼名に応じることができる。</p> <p>⑥話を聞き、理解できる。</p> | <p>③気持ち(意思)を表出することができる。</p> <p>④我慢できる。</p> | <p>④順番を守ることができる。</p> <p>⑪道具を正しく使うことができる。</p> |
| 4 健康管理力 | 5 役割遂行力 | 6 見通し、行動する力 |
| <p>⑧感染を予防することができる。</p> | <p>④準備、片付けができる。</p> <p>⑨評価を受け入れて、実行力を高めることができる。</p> <p>⑩役割遂行することができないときに、助けを求めることができる。</p> <p>⑫作業のミスに気づき修正することができる。</p> | <p>①様々な情報から必要なものを得ることができる。</p> <p>②見通しを立てて行動することができる。</p> <p>③自己選択・自己決定することができる。</p> |

10. 単元の指導と評価の計画 (全 10 時間、本時は第 9 時)

| 次 | 時 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 規準 |
|-----|------------------|---|--|---|----------|
| 第一次 | 1 2 3 4 | <p>・電子黒板や iPad のカメラ機能の使い方を知る。</p> <p>・丸、三角、四角という名称と特徴を確認する。</p> | <p>・ルールや順番を守って電子黒板や iPad のカメラ機能を使う。</p> <p>・はてなボックスの中に入っているものの形を触って考える。正誤を電子黒板で確認する。</p> | <p>・最初に電子黒板や iPad を使うルール等を確認する。</p> <p>・課題に選択肢を用意し、主体性を大切にしながら、児童が選べるようにする。</p> | A① C① |

| | | | | | |
|-----|--------------|---|---|--|----------|
| 第二次 | 5 6 7 | ・絵や写真の中から丸や三角や四角を探す。 | ・電子黒板に映し出された絵や写真の中から、形に注目して丸や三角や四角を見つける。 ・見つけた形の特徴を確認し、図形ごとに分類する。 | ・児童の実態に応じて様々な課題を用意し、児童が選べるようにする。 ・活動時間を増やすため、1回につき見つける形は1つであるというルールを確認する。 | A② B① |
| 第三次 | 8 9 10 | ・丸や三角や四角の形を教室や校内から探す。 ・見つけた形を発表する。 | ・丸、三角、四角のうち選んだ形を教室や校内から探し出し、iPadのカメラで撮る。 ・撮影した写真の中から見つけた形を電子黒板のペンで描く。 ・電子黒板を使って、見つけた形を発表する。 | ・見つける形を児童が選べるようにする。 ・児童の主体性を大切にしながら必要に応じて支援をする。 ・発表の際の立ち位置や、セリフや声の大きさなどの手がかりを視覚的に示し、安心して発表できる環境を整える。 | B② C② |

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・身の回りにあるものから丸や三角や四角の形を探し出すことができる。
- ・自分の見つけた形を相手に伝えようとするすることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・教室にあるものの形に注目して、丸や三角や四角の形を探し出している。【B②】
- ・自分が見つけた形を写真に撮り、電子黒板を使って発表しようとしている。【C②】

(3) 本時で扱う教材・教具

電子黒板、iPad、液晶ペンタブレット、ホワイトボード、形カード、顔写真、振り返りプリント、筆箱（児童個人）、赤ペン、個人ファイル、穴あけパンチ、スケジュールカード、おしまいボックス、当番カード

(4) 本時の学習過程

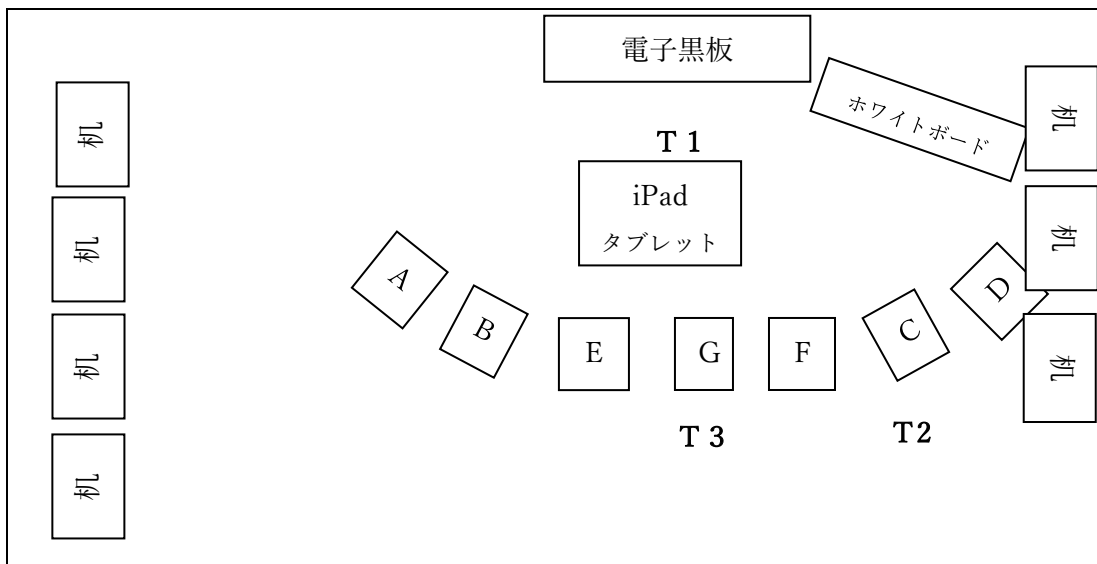
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点及び 支援の手だて等 | 評価規準 | キャリアの 観点 |
|--------------------|--|---|------|--|
| | マスクを着用する。 | 授業全体を通して、コロナウイルス感染症予防のためマスク着用を促す。 | | 4-⑧ |
| 8分 導 入 | <p><u>はじめのあいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番が前に出て進行をする。 <p><u>よてい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番はスケジュールカードを手がかりに今日の活動を発表する。 ・当番は終わった活動のスケジュールカードをおしまいボックスに入れる。 <p><u>なまえ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番は順番に名前を呼ぶ。 ・名前を呼ばれたら手をあげて返事をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・当番に注目して、姿勢を正して座るよう促す。児童が授業のはじまりを意識できるようにする。 ・活動に見通しが持てるようスケジュールを視覚的に示し、今日の活動の流れを確認しやすくする。 ・せりふカードを提示する。 ・名前がわからないときは「名前を教えてください」と聞くように促す。 ・返事の仕方のモデルを示す。 | | <p>1-①</p> <p>6-②</p> <p>1-⑤ 5-⑪</p> |
| 12分 展 開 ① | <p><u>カメラでとろう</u></p> <p>①今日の課題の説明を聞く。</p> <p>「教室にあるものから丸、三角、四角を見つけて、写真を撮り、発表しよう」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の課題を説明する。課題の仕方のモデルを示す。 | | 1-⑥ |

| | | | | |
|--------------------|--|---|----------------------|---|
| | <p>②自分が探したい形を選ぶ。</p> <p>・ホワイトボードの形カードの下に自分の顔写真を貼る。</p> <p>③選んだ形を教室の中にあるものから探す。</p> <p>④形を見つけたら、iPadのカメラ機能で撮影をする。</p> <p>・教員からiPadを受け取り、カメラ機能を起動して撮影する。</p> <p>⑤撮影が終わったら、全員が終わるのを座って待つ。</p> | <p>・ホワイトボードを裏返し、形カードを示す。</p> <p>・個別に支援が必要な場合は、教員に支援を求めよう促す。子どもの実態に応じて支援をする。</p> <p>・形を見つけた児童にiPadを渡す。必要に応じて撮影の見守りをする。</p> <p>・撮影が終わった児童は座って待つように促す。</p> | <p>【B②】 行動観察</p> | <p>1-② 2-③ 6-③</p> <p>5-① 6-①</p> <p>3-①</p> <p>2-④</p> |
| 15分 展 開 ② | <p><u>はっぴょう</u></p> <p>①発表の仕方の説明を聞く。</p> <p>②1人ずつ順番に前に出て、発表する。</p> <p>・電子黒板に映し出された写真から見つけた形を抽出してペンで書き示す。</p> <p>・「〇〇をみつけました」「いいですか」と発表する。</p> <p>③ 発表を聞いていた児童は液晶ペンタブレットを用いて評価する。</p> | <p>・発表の時のせりふカードをホワイトボードに貼り示す。発表の方法のモデルを示す。</p> <p>・電子黒板にiPadを接続し、撮影した写真を1枚ずつ映す。撮影した児童は前に出るように促す。</p> <p>・必要に応じて評価をするよう促す。</p> <p>・発表の補足や良かった点を伝える。</p> | <p>【C②】 行動観察</p> | <p>1-⑥</p> <p>1-③ 3-④</p> <p>3-① 5-⑨</p> |

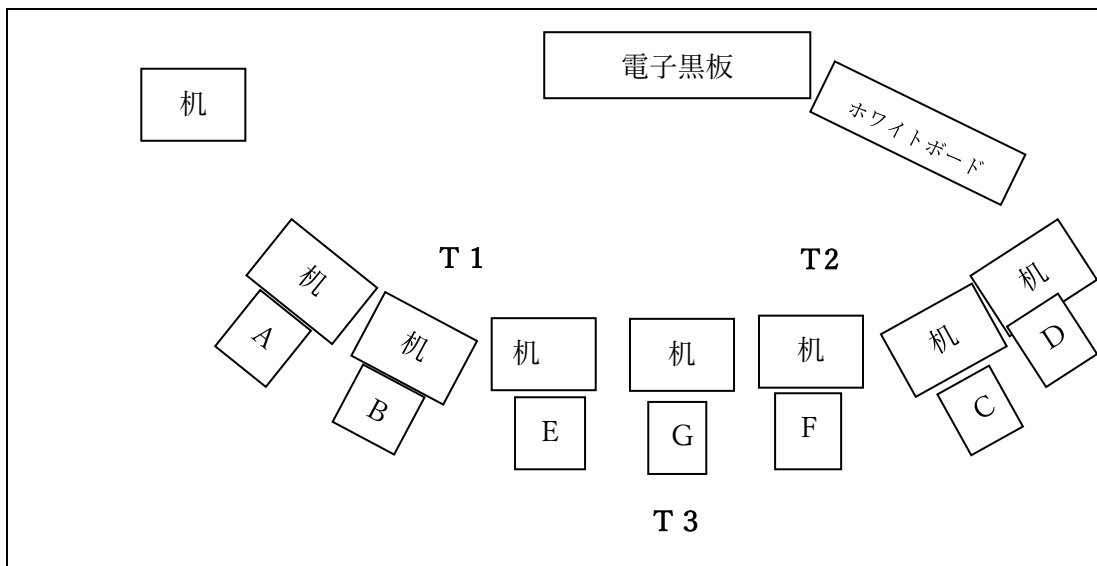
| | | | |
|---------------------------------|--|---|--|
| <p>15分</p> <p>ま と め</p> | <p><u>プリント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・解き方の説明を聞く。 ・机と筆記用具を用意する。 ・プリントの問題を解く。 ・終わった人は手を上げて教員を呼び、確認を受ける。 ・間違っている部分は訂正し、再度確認を受ける。 ・穴あけパンチで穴をあけ、ファイルに閉じる。 ・片づけをして、全員が終わるのを座って待つ。 <p><u>ふりかえり・次回の予定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の感想を発表する。 ・教員の話を見聞きし、今日の活動を振り返ると共に、次回の活動に見通しを持つ。 <p><u>おわりのあいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番は前に出て進行をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習内容を振り返るプリントを用意する。解き方の説明をする。机と筆記用具を用意するよう伝える。 ・個別に支援が必要な場合は、手を挙げて教員を呼ぶように促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の感想を尋ねる。 ・良かった点や頑張っていた点を伝える。想起しやすいように必要に応じて視覚的に示す。 ・当番に注目して、姿勢を正して座るよう促す。児童が授業の終わりを意識できるようにする。 | <p>5-④</p> <p>5-⑪ 5-⑫</p> <p>5-④ 2-④</p> <p>6-②</p> <p>1-①</p> |
|---------------------------------|--|---|--|

(5) 教室配置等(正面を上にして、児童や教員の位置、教材・教具の配置等を示す)

導入・展開



まとめ以降



「国語科」(ことば) 学習指導案

府立豊中支援学校

T1 安部 千晶

T2 増賀 正志

1. 日時 令和2年9月30日(水) 第4時限(13:25~14:15)

2. 場所 第2学年 4組教室

3. 学部・学年・組 中学部 第2学年 7名

4. 単元名 「絵本をつくろう」

5. 単元目標

- ・オノマトペを自己選択し、自分からやってみようと自発的に取り組むことができる。(学・人)
- ・絵本作りで使ういろいろな素材等を通して、身近で使うオノマトペに親しむ。(思・判・表)
- ・字を丁寧に写したり、字のマッチングをしたりすることができる。(知・技)

《特別支援学校 小学部 国語 2段階ーイウ 》

6. 生徒観

本グループには7名の生徒が在籍しており、その中には物事に対して興味関心の幅が狭く集中力が持続しにくい生徒、個人間における簡単なコミュニケーションは取れるものの多人数の人前での発表等が苦手な生徒、不登校気味で音に過敏があり人数の多い教室には入れないため、まずは登校して校内散策をすることを目標に登校している生徒などがいる。しかし、これら全ての生徒に共通して言える点は、興味・関心があるものに対しては表情に笑顔が見られ、積極的に取り組むことができるという点である。

学習に関しては、文字を理解している生徒、その前段階を学習している生徒がいるが、個々にコミュニケーションを取っていく中で生徒一人ひとりには内言語をたくさん持っていると感じられた。そのため好きな絵本や好きな感触など生徒たちの興味・関心があることからアプローチを行うことで生徒の持っている内言語をうまく外言語化して絵本づくりができるのではないかと考えた。

以上のことから、生徒各個人により能力差があることを念頭に置き、一人ひとりの実態やその日の調子を考慮した上で、個々の特性に合った教材の準備及び活動を実施する工夫をしながら活動に取り組んでいきたい。

7. 教材観

今まで行ってきた絵本の読み聞かせの中で、「だるまん」や「びよん」では、生徒全員が笑顔を見せる等の反応が見られた。その中でも「びよん」の読み聞かせでは、日頃から読み書きに対して最も興味・関心の薄かった生徒が自ら手を伸ばして絵本をめくろうとしたり、最後の「びよん」の場面では

1 人ひとりが笑顔で教員と一緒に順番にジャンプをしたりするなど主体的に参加する様子がみられた。

そのため、本単元では生徒たちが興味・関心を持った絵本「ぴょーん」を選んだ。この絵本を教材にすることで、身近で馴染みのある生き物について自ら学びたいと思う気持ちを持ちやすいと考えたからである。また、感触に対して興味を示す生徒が多かったため綿や紙やすり、デコボコの紙など様々な感触の素材を使用して絵本を制作することとした。その制作過程で生き物に対する興味・関心を広げると共に、生き物の名前や感触、ジャンプの表現のオノマトペに親しむ機会にしたい。そして、文字が書ける生徒には文字を書くことで達成感を感じてほしい。好きな感触を感じたり、体を動かしたりしながらオノマトペを体験することで言葉のイメージをはっきりさせながら文字を書き文字のマッチングを行うことで文字に対して興味が持ち達成感を感じることができると考える。さらには、この教材を通じて日常生活においても様々な物や文字にふれる機会を増やしていき、物と言葉の結び付きへと繋げていきたい。

8. 指導観

指導に当たっては、集中課題、個別課題、グループ課題の時間を設定することで、気持ちを切り替えながら課題に取り組めるようにした。集中課題では、指先を使うことに重点を置き、個々の能力に合ったシール貼りやマッチング課題を中心に行っている。短時間の中で一人で取り組める課題にすることで集中して取り組む姿勢を身につける。個別課題では、各個人に分かれ書写の練習や運筆練習等、鉛筆を持って取り組む課題を多くいれている。この課題では、個々の能力より少しだけ難しい教材を設定し、教員の支援が少しあるとできる教材に取り組むことで自信をつけるとともに、できた時の達成感を共有し学習に前向きに取り組める活動にしている。また、課題を終えるのに時間差がでてくるため、袋詰めの仕分けや絵合わせなど作業的な活動を行う時間も設定し待ち時間がでないようにしている。グループ課題では、みんなで同じ課題を共有していくことで、対話的な授業に重点を置き、内言語を獲得している生徒が言語化していけるよう教員や生徒同士での関わりを大切に活動にしていきたい。

様々な学習内容を個々の能力に見合った課題に設定することで課題を主体的に行うことができ、そこでの成功体験が自信に繋がると考える。また、カードや写真、見本などの視覚支援を活用することで本時の見通しを持ちやすくし、活動内容を明確にした上で課題に取り組めるようにしたい。

本単元では感触の違う素材を使用した絵本の制作を、生徒たちの好きな物や興味が持てることからアプローチをしていくことで言葉を今以上に身近に感じ、生徒自身もオノマトペを使いながらジャンプ等の体を使った実体験をすることでオノマトペに親しみ、日常生活の中で使えるようになってほしい。

そして、出来上がった作品の名前や文字の学習に積極的に取り組める環境を効果的に作り出し、生徒が成功体験を積み重ねて喜びを感じることで、今後の様々な場面において生徒の能力を伸ばしていくきっかけとしたい。

9. 単元の評価規準

①評価規準

| A 知識・技能 | B 思考・判断・表現 | C 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| ① 自分が作った生き物が何か分かる。 ② 見本を見ながら字を書いたり、マッチングしたりすることができる。 | ① 作品に合うオノマトペを自ら選択している。 ② オノマトペに合わせ様々なジャンプを教員と一緒にしようとしている。 | ① 自発的に活動に取り組もうとしている。 ② 自ら素材に触れようとしている。 |

②キャリア教育の観点

| 1 コミュニケーション | 2 協調する力 | 3 ルール理解・遵守力 |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| ① あいさつすることができる ③ 自分の意見伝えることができる。 | ③ 気持ちを表出することができる。 | ① 道具を正しく使うことができる。 |
| 4 健康管理力 | 5 役割遂行力 | 6 見通し、行動する力 |
| | ④ 準備後片付けができる。 | ① 様々な情報から必要なものを得ることができる。 ② 見通しを立てて行動することができる。 ③ 自己選択・自己決定することができる。 |

10. 単元の指導と評価の計画(全30時間、本時は第8時)

| 次 | 時 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 |
|-----|-------------|-------------------------------------|--|--|------|
| 第一次 | 1 ~2 | ・絵本「びよん」を見る。 ・絵本で制作する生き物を選ぶ。 | ・「びよん」の絵本を見る。 ・生き物の写真や絵本の見本を見て、その中から自分の好きな生き物を5つ選ぶ。 | ・絵本に注目しやすいよう、生徒の近くに絵本を見せにいたり、声に抑揚をつけたりして読む。 ・生き物の写真や絵本の見本を見せ、今から作る物をイメージさせる。 ・写真を見せながら、どの生き物を作りたいか一人ひとり順番に聞くようにする。 | C-① |

| | | | | | |
|-----|--------|-----------------------------|---|--|------------|
| 第二次 | 3～ | 絵本を作る。 ・ページをつくる。 | ・型紙にいろいろな素材(綿、紙やすり、ボンド、塩、デコボコの紙、プチプチ)を貼り、生き物の制作をする。 | ・自分が使いたい素材を選択できるように、いくつかの素材を提示し選べるようにする。 | C-① |
| | (8) 本時 | | | | A-① |
| | 29 | ・いろいろな素材に触れる。 | ・素材の感触をオノマトペで表現する。 | ・1つずつ素材を触るよう伝える。同時に、オノマトペの表現を声に出して伝え、生徒にも一緒に声を出して言うよう促す。 | C-② |
| | | ・オノマトペを実体験する。 | ・教員と手を繋ぎ一緒にジャンプをして、いろいろな「ぴょん」を体験する。 | ・生徒と手を繋ぎオノマトペに合わせたジャンプをする。 | B-② |
| | | ・ページにことばを入れる。 | ・自分の好きなオノマトペカードを見て書き写す。または文字シールをマッチングし貼る。 | ・オノマトペカードを準備し視覚的に分かりやすいようにする。 ・字の大きさを分かりやすくするために、外枠を準備する。 ・オノマトペカードの下に同じ文字を貼るよう、貼る位置にマークを描く。 | B-① A-② |
| | | ・ページを貼り合わせる。 | ・できたページを貼り合わせる。 | ・貼り合わせるページを分かりやすく色分けし、どこを貼り合わせればいいのか分かりやすくする。 | C-① |
| 第三次 | 30 | ・自分の制作した絵本や他者が完成させた絵本を鑑賞する。 | ・自分で作った絵本を発表する。 ・他の人の作品を鑑賞する。 | ・生徒自身がページをめくりにくいときは教員がページをめくる。 ・他の人の作品の感想を尋ねる。 | |

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分が制作した生き物がなにかを知る。
- ・生き物にどんな「ぴょん」が合うのか選択し書く。
またはマッチングすることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・自分が制作した生き物を答える。または写真カードから選ぶことができる。(A-①)
- ・オノマトペに合わせた様々なジャンプを教員と体験し、オノマトペカードを自分で選択することができる。(B-①②)
- ・選択したカードを写す。またはマッチングすることができる。(A-②)
- ・課題を自主的に行うことができる。(C-①)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・集中課題教材（カラーシール・マッチング課題プリント・ミニホワイトボード・文字磁石）
- ・個別課題教材（色画用紙・食べ物シールを貼った紙粘土・ポリ袋・洗濯ばさみ・型紙・線ひき練習プリント・ひらがな練習プリント）
- ・グループ課題教材
- ・オノマトペカード ・イラスト写真 ・オノマトペシール
- ・カラーペン ・外枠

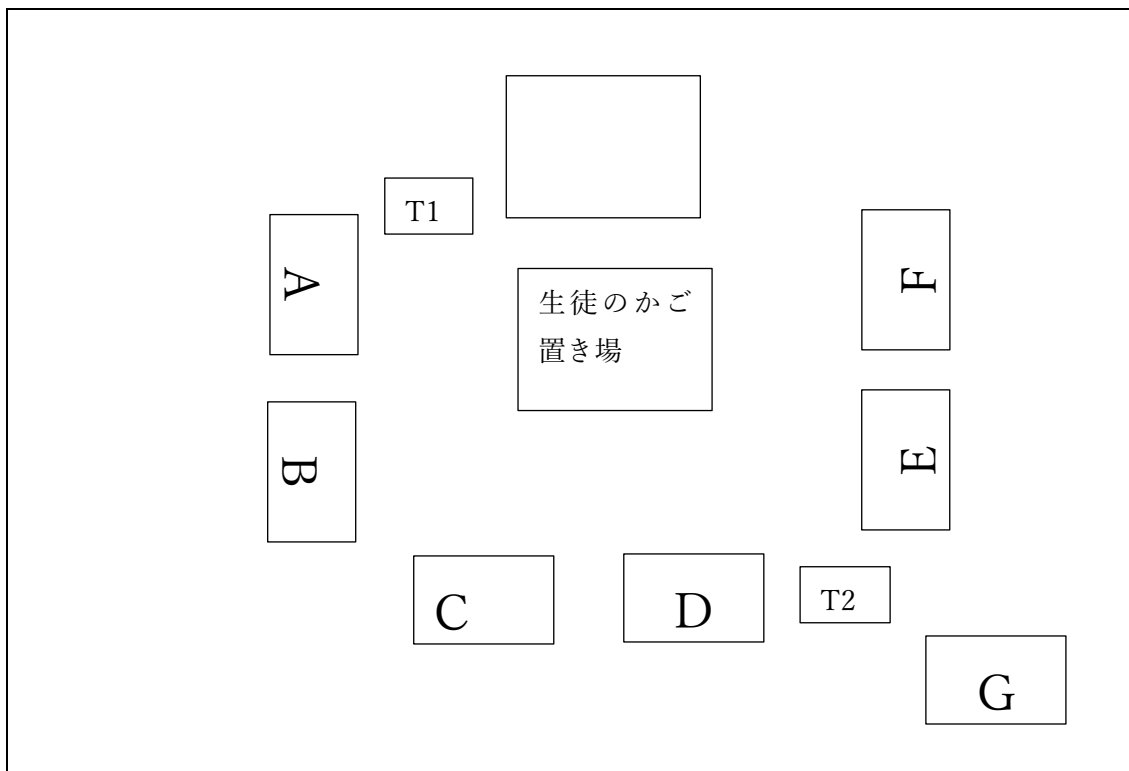
(4) 本時の学習過程

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点及び 支援の手だて等 | 評価規準 | キャリアの 観点 |
|-----------|---|--|------|--|
| 10分 導入 | <p>始まりの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BGM を聞き、授業の始まりを意識する ・日直は、課題の横に数字を貼る。 <p>始まりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日直は号令をかける。 ・日直の号令であいさつをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・BGM を流し、授業の始まりを意識できるようにする。 ・数字カードを広げ取りやすくする。 ・あいさつができていない生徒にあいさつをするよう言葉かけを行う。 | | <p>見-①②</p> <p>コ-① コ-⑤</p> <p>見-①</p> <p>ル-⑪</p> |

| | | | | |
|------------|---|--|-------------|-------------|
| | <p>出席の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。 <p>日付の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付当番はカレンダーを確認しながらホワイトボードに日付カードを貼り、発表する。 <p>課題の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の顔写真のついたかごを取り、自分の席に戻る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・返事ができなかったときは「はい」と言うよう促す。 ・発表前にはホワイトボードに注目するよう声をかける。 ・自分の顔写真を探すよう促す。 ・各生徒の課題かごを机の上に並べておく。 | | |
| 5分 展開① | <p>集中課題</p> <p>(・色マッチング・文字マッチング・形のマッチングなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題ができたなら「できました」と報告する。 ・集中課題を終わりのかごに入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手が止まっているときは、課題をするよう促す。 ・報告を忘れているときは、報告をするよう促す。 ・終わりのかごをテーブルに置き、課題を入れるよう伝える。 | C-① 行動観察 | 見-②③ |
| 10分 展開② | <p>個別課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント課題(運筆練習、ひらがな練習)をする。 ・作業課題(・分別袋詰め of 課題、洗濯ばさみ、絵合わせなど)をする。 ・課題ができたなら「できました」と報告する。 ・個別課題をテーブルに持っていき、席に戻る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間がないよう、プリント課題と作業課題を準備する。 ・課題ができたなら「できました」と伝えるよう声かけをする。 ・課題が終わった人から、テーブルに課題かごを出すよう促す。 | C-① 行動観察 | 見-②③ ル-⑪ |

| | | | | |
|--------------------|--|---|---|------------------------|
| <p>20分 展開③</p> | <p>グループ課題 (絵本作り)</p> <p>① 活動の説明を聞き、目標の確認をする。</p> <p>② 自分が制作した、生き物の名前を答える。</p> <p>③ いろいろな「ぴょん」を体験する。</p> <p>④ 自分の好きな「ぴょん」を選んで貼る。</p> | <p>・絵本づくりの流れを説明する。</p> <p>・前回の授業で出来上がった作品を見て自分が作った物を思い出すよう支援する。</p> <p>・教員と手をつなぎ、いろいろな「ぴょん」を体験する。</p> <p>・見本として、いろいろなオノマトペカードを準備する。</p> | <p>A-① 行動観察</p> <p>B-② 行動観察</p> <p>B-① A-② 行動観察</p> | <p>見-①②</p> <p>見-③</p> |
| <p>5分 まとめ</p> | <p>鑑賞</p> <p>・他者が制作した作品を鑑賞する。</p> <p>振り返り</p> <p>・自分が目標を達成できたかを確認する。</p> <p>終わりのあいさつをする。</p> <p>・日直は号令をかける。</p> <p>・日直の号令に合わせてあいさつをする。</p> | <p>・うつむいている生徒には作品を見るよう言葉かけを行う。</p> <p>・1人ずつ問いかけ、目標が達成できたかを確認する。目標が達成できていたらハイタッチをする。</p> <p>・あいさつができていない生徒にあいさつをするよう言葉かけを行う。</p> | | <p>コ-③</p> <p>コ-①</p> |

(5) 教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



「美術」学習指導案

大阪府立豊中支援学校

T1 高岡志都子

T2 杉山巴菜

T3 川村和美

1. 日時 令和2年9月24日(木) 第1時限(9:35~10:25)

2. 場所 美術室

3. 学部・学年・組 高等部 第2学年 学習②グループ

4. 題材名 合わせ鏡の世界を体験しよう「ミラーBOX ロング」

5. 題材目標

- ・立体作品を多面的に見ることができる。
- ・見え方の不思議に気づくことができる。
- ・自身の作品と他者の作品との違いや共通点を見つけることができる。

(特別支援学校 高等部学習指導要領 美術1段階)

6. 単元における生徒観

学習②グループは得意・不得意の分野が幅広いグループである。制作意欲のある生徒が多い中、表現したいことを明確に表現できる生徒もいれば、上手く表現することが難しい生徒もいる。また、制作技術においても基本的な用具の使い方や動作を身につけている生徒もいれば、自由な使い方での表現を行う生徒もいる。表現や技術において構想を持ち表現が豊かな生徒が多く、全員で協力しながら制作に取り組むことができるグループである。

7. 単元における教材観

「ミラーBOX ロング」は、普段あまり目にする事のない〈合わせ鏡〉の世界を自分自身の手で作ることができる教材である。完成するまでどんな世界になるのか分からず、常に興味を持ち続けながら制作に取り組めることが魅力である。どのような絵柄にすればどんな世界になるのか、試行錯誤の末に大きな発見を得られる面白味のある教材であると考え採用した。

8. 単元における指導観

立体をイメージできる生徒には、第2次の取り組みである「デザインを考える」の領域から、想像力を存分に発揮して自ら積極的に制作に取り組むことができるようにする。また、イメージを持って制作に取り組むことが苦手な生徒には、自分が描いた絵柄が立体になることで、その絵柄をまた新しい見方で見るができるようにする。このような取り組みから、一人ひとりに合った目標を立てることができると考えた。完成した自分の作品を見たとき、それは想像していたよりも遥かに驚きの世界であることが多く、この作品を制作することにより、平面的なものが立体

になったり、普段見慣れたものの形が変わったりしたときに、その変化に気づき、興味を持つことで、自分で自分の世界を広げていくことができる力を更に身につけて欲しいと考えている。又、友人の作品を鑑賞することで、その違いや共通点から自分自身の世界についてより深く考えることができる力を身につけて欲しいと思っている。

9. 題材の評価規準

①評価規準

| A 知識・技能 | B 思考・判断・表現 | C 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------------------------|---|------------------------|
| ① 「合わせ鏡の仕組み」を理解できる。 ② 用具を正しく使える。 | ① 好きな色を選ぶことができる。 ② 立体をイメージできる。 ③ イメージを形にすることができる。 ④ 違いや共通点を見つけることができる。 | ① 作品に興味を持って取り組もうとしている。 |

②キャリア教育の観点

| 1コミュニケーション | 2 協調する力 | 3 ルール理解・遵守力 |
|---------------------------------|---|--|
| ① あいさつをすることができる ② 話を聞き、理解できる | ① 集団に参加できる ② 気持ち(意思)を表出することができる | ① 順番を守ることができる ② 道具を正しく使うことができる |
| 4 健康管理力 | 5 役割遂行力 | 6 見通し、行動する力 |
| ① 手指を清潔に保つことができる | ① 準備、後片付けができる ② 物を扱うときの基本動作ができる ③ 役割遂行することができないときに、助けを求めることができる | ① 見通しを立てて行動することができる ② 自己選択・自己決定することができる |

10. 題材の指導と評価の計画(全8時間、本時は第4時)

| 次 | 時 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 |
|----|-------------|--------------------------|---|--|--------------------------|
| 1次 | 1 | ・作品説明 | ・作品形態の説明を聞く。 ・内側に絵柄のある箱を見る。 ・二つの鏡を使って「合わせ鏡」を見る。 | ・参考資料と箱、鏡を準備する。 ・どの説明をしているのか、個別に確かめながら説明を行う。 | A-① C-① |
| 2次 | 2 | ・デザインを考える | ・スケッチブックに色鉛筆でデザインを考える。 | ・イメージし易いよう、箱の展開図を準備する。 | B-① B-② |
| | 3 ④ 5 | ・内側や外側の全ての面に好きな絵や模様を描く。 | ・ポスカや絵具を使って描く。 | ・必要に応じてポスカの正しい使い方を伝える。 ・制作について必要があれば適時アドバイスを行う。 | A-② B-① B-② B-③ |
| | 6 7 | ・立体物を制作する ・仕上げの確認を行う。 | ・手順通りに組み立てる。 ・粘土や小さな素材を使って立体物を作る。 | ・全体のバランスを見てから立体物の制作を行うよう伝える。 | A-② |
| 3次 | 8 | ・自作・他作の鑑賞を行う。 | ・上から見たり、穴から覗いたりするなど、色々な角度から作品を楽しむ。 | ・必要があれば、自作・他作の工夫点を伝える。 | A-① B-④ |

11. 本時の展開

(1) 本時の目標 第2次4時「内側の面を描く」

- ・ポスカの使い方を意識する。
- ・多様なデザインを考える。
- ・立体をイメージしながら制作する。

(2) 本時の評価規準

- ・用具(ポスカや絵の具)を正しく使えている。[A-②]
- ・自分好きな色を選んで制作に取り組んでいる。[B-①]
- ・完成形をイメージしながら制作に取り組んでいる。[B-②③]

(3) 本時で扱う教材・教具

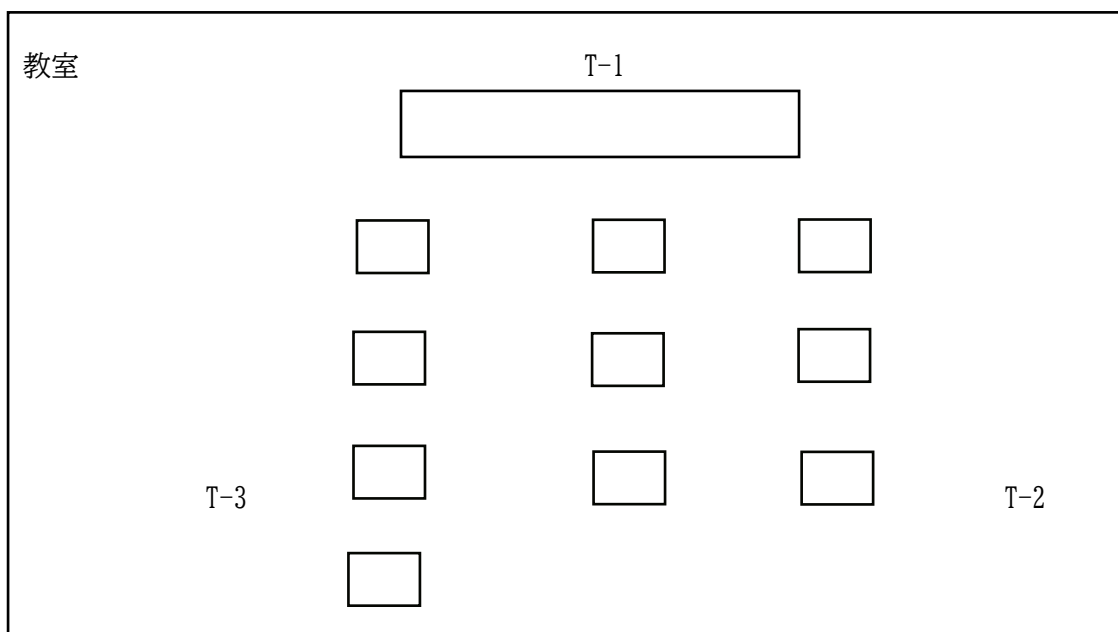
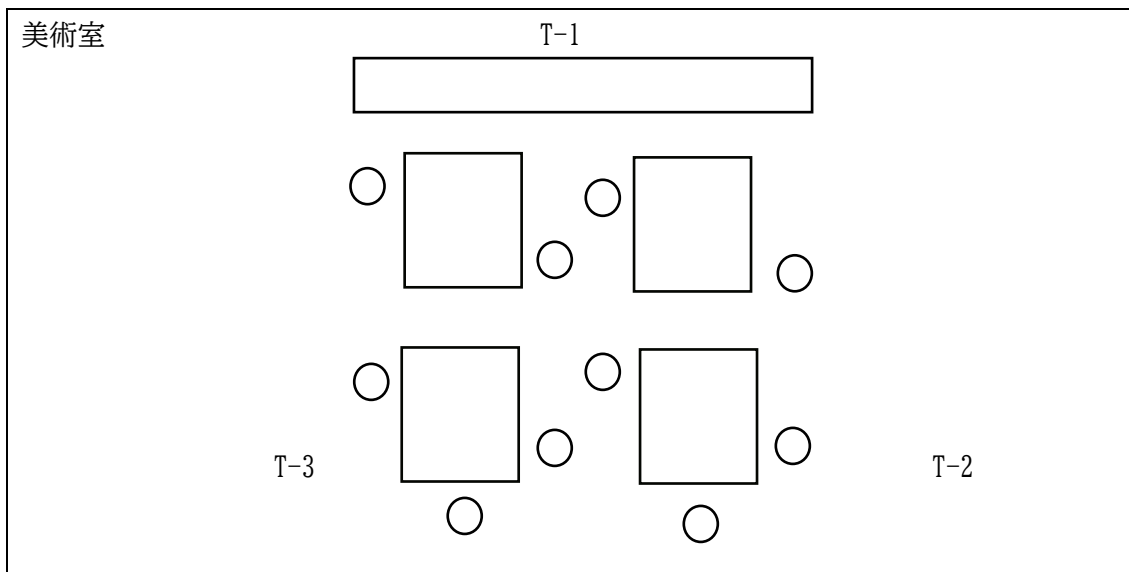
- ・「ミラーBOX ロング」キット・ポスカ(絵具)・新聞紙・セロハンテープ
- ・デザイン見本・スケッチブック

(4) 本時の学習過程

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点及び 支援の手だて等 | 評価規準 | キャリア の観点 |
|---------------|---|---|--|--|
| 10分 導 入 | <ul style="list-style-type: none"> ・始まりの挨拶を行う。 ・名前を呼ばれたら返事をする。 ・教室から美術室に移動する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・号令をかける。 ・出席を取る。 ・生徒の安全を確認しながら付き添いと誘導を行う。 | | <ul style="list-style-type: none"> 1-① 1-② |
| 25分 展 開 | <ul style="list-style-type: none"> ・制作キットと新聞紙(必要な生徒)を指名された生徒が各生徒に配る。 ・新聞紙を広げ制作キットの下に敷く。(必要あれば) ・絵柄を描くときの向きを確認する。 ・ポスカの使い方の説明を聞く。 ・色の塗り方の説明を聞く。 ・指名された生徒がポスカを各テーブルに配る。 ・絵具が必要な生徒は絵具の準備をする。 ・箱の外側の面を描く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン見本をホワイトボードに貼る。 ・制作キットの名前の確認を行う。 ・新聞紙が動いてしまう時は、セロハンテープで留めるよう伝える。 ・絵柄を描くときの向きを説明する。 ・ポスカを使う際は、芯を強く押し過ぎないように注意を促す。 ・先に描いたポスカの色が乾いてから、別の色を重ねるよう伝える。 ・ポスカはあらかじめ前の教卓に出しておき、取りに来るよう伝える。 ・絵具が必要な生徒は教員と一緒に準備を行う。 ・イメージや取り組みに迷いが出て来ている生徒には一度手を止めて、全体を確認しながら取り組むよう促す。 | <ul style="list-style-type: none"> A-② 行動観察 B-① 行動観察 B-② 行動観察 B-③ 行動観察 | <ul style="list-style-type: none"> 3-② 5-② 5-③ 6-① |

| | | | | |
|--------------------|--|---|--|--------------------|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・色や模様を楽しみながら取り組んでいる生徒は、同じ色に偏っていないか、塗り残しはないか確認する。 ・各自評価する。 | | |
| 15分 ま と め | <ul style="list-style-type: none"> ・ポスカや絵具を塗った作品を乾燥棚に置く。 ・絵具を使った生徒は用具を洗う。 ・ポスカを棚に片付ける。 ・石鹸で手を洗う。 ・今日の振り返りと、次回の制作予定を聞く。 ・終わりの挨拶を行う。 ・美術室から教室に移動する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品が重ならないよう、間隔をあけて乾燥棚に置くように指示する。 ・絵具用具の洗浄や片付けを手伝う。 ・ポスカのキャップが閉まっているか確認する。 ・石鹸で手を洗えているか確認する。 ・今日の制作過程の振り返りを行う。 ・号令をかける。 ・戸締り・消灯・施錠を行う。 ・生徒の安全を確認しながら付き添い・誘導を行う。 | | <p>5-① 4-①</p> |

(5) 教室配置等(正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す)



豊中支援学校 キャリア教育 6 観点とその内容項目 (R 元年 9 月 6 日確定版)

| | 項目 | 小項目 | 内 容 |
|---|--|--------|---|
| 1 | コミュニケーション力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【コ-○】 | 発信 | ①あいさつをすることができる ②自分の要求・意思を伝えることができる。 ③自分の意見を伝えることができる。 ④報告、連絡ができる。 |
| | | 受信 | ⑤呼名に応じることができる ⑥話を聞き、理解できる。 |
| | | 関わり | ⑦身近な大人に関わることができる。 ⑧友だちと関わることができる。 |
| 2 | 協調する力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【協-○】 | 集団 | ①集団に参加できる。 ②協力できる。 |
| | | 自己 | ③気持ち(意思)を表出することができる。 ④我慢できる(耐性) |
| | | 対人 | ⑤他者の要求に適切に応じたり、拒否したりすることができる |
| 3 | ルール理解・遵守力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【ル-○】 | 社会のルール | ①人を傷つけない行動をする。 ②法律を遵守する。 |
| | | 公共の場面 | ③丁寧な言葉を使うことができる。 ④順番を守ることができる。 ⑤場面に合わせたマナーを身につけることができる。 ⑥その場に適した服装をすることができる。(TPO) ⑦場に応じて身だしなみを整えることができる。 ⑧電車・バス等を利用することができる。 |
| | | 日常生活 | ⑨時間を守ることができる。 ⑩買い物をすることができる。 ⑪道具を正しく使うことができる。 |
| 4 | 健康管理力 (自己理解・自己管理能力) 略号は【健-○】 | 食事 | ①食事量、食べる速さを調節することができる。 ②偏食を改善することができる。 |
| | | 更衣 | ③衣類の調節ができる。 |
| | | 排泄 | ④定期的に排泄を行うことができる。 ⑤排泄の処理を行うことができる。 |
| | | 清潔 | ⑥手指を清潔に保つことができる。 ⑦口腔の清潔を保つことができる。 ⑧感染を予防することができる。 |
| | | 生活リズム | ⑨起床、就寝時刻を自己管理できる。 |
| | | 運動 | ⑩運動習慣を身につけることができる。 |
| | | 不調への対応 | ⑪不調を訴えることができる。 ⑫手当てができる。 ⑬自らクールダウンすることができる。 |
| | | 余暇の活用 | ⑭充実した余暇を過ごすことができる。 |
| | | 服薬管理 | ⑮服薬の管理ができる。 |
| 5 | 役割遂行力 (課題対応能力) 略号は【役-○】 | 認識・理解 | ①学年、クラス、グループ等に属していることを意識できる。 ②実習先や異なる年齢間での立場を理解できる。 |
| | | 遂行 | ③係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。 ④準備、後片付けができる。 ⑤安全に配慮して活動をすることができる。 ⑥急な役割変更に対応し、遂行することができる。 ⑦物を扱うときの基本動作ができる。 ⑧目的地まで移動することができる。 |
| | | 評価 | ⑨評価を受け入れて、実行力を高めることができる。 ⑩適正に自己評価することができる。 |
| | | 発展・改善 | ⑪役割遂行することができないときに、助けを求めることができる。 ⑫作業のミスに気づき修正することができる。 |
| | | 目標設定力 | ①様々な情報から必要なものを得ることができる。 ②見通しを立てて行動することができる。 ③自己選択・自己決定することができる。 ④自分の長所・短所、得意・不得意を知る(自己理解)ことができる。 |
| 6 | 見通し、行動する力 (キャリアプランニング能力) 略号は【見-○】 | 将来を描く力 | ⑤見学や実習をとらして、卒業後の進路(生活)を考えることができる。 |

指導計画等に示すときの略号は、例えば【1コミュニケーションの③】の場合は最初の一文字を取って【コ-③】とする

あ　と　が　き

今年度の重点目標「校内の研究・研修体制の整備推進」と「授業研究や実践交流、外部人材の活用を通じた専門性及び授業力の向上」を達成するために、この一年間取り組んできた教育実践を研究紀要にまとめました。各実践報告をご一読いただき、ご批評いただけたら幸甚です。

最後に、今年度の研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言いただきました先生方には心より感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。今後とも、本校の研究活動に、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

教　頭　　岩井　宏氏

～ご指導・ご助言を賜りました先生方～

| | | | |
|-----------|------|-------|---|
| 大阪府教育センター | 指導主事 | 小田村　航 | 様 |
| 大阪府教育センター | 指導主事 | 笠岡　一行 | 様 |